

【令和3年度第1回伊吹山を守る自然再生協議会】

議事録（概要）

■日 時 令和3年7月20日（火）10時00分～12時00分

■会 場 米原市役所本庁舎3階 3DE会議室

■出席者（敬称略）

出席：23人（うち代理出席5人、ZOOM出席7人）

伊吹山もりびとの会（西澤）、伊吹山ネイチャーネットワーク（代理:山下）、ユウスゲと貴重植物を守り育てる会（高橋滝）、日本自動車道（水谷[ZOOM]）、滋賀鉱産（代理：柏、柴田、南浮[ZOOM]）、近江鉱業（上阪）、環境省近畿地方環境事務所自然環境整備課（平井[ZOOM]）、岐阜県環境企画課（代理：藤掛、正村[ZOOM]）、岐阜県揖斐県事務所環境課（早田[ZOOM]）、揖斐川町商工観光課（高橋[ZOOM]）、米原市自治協働課（西出）、米原市まち保全課（代理：徳田）、米原市シティセールス課（坂）、米原市生涯学習課（代理：高橋）、米原市地域振興課（安田）、滋賀県琵琶湖環境部（林）、滋賀県自然環境保全課（矢野）、滋賀県湖北環境事務所（内藤）、野間顧問、須藤顧問、高柳顧問、嵯峨顧問[ZOOM]、柴田委員

欠席：8人

上野自治会（高橋兵）、伊吹山観光振興会（寺村）、山頂山小屋組合（松井）、米原観光協会、文化庁文化財部記念物課（田中）、関ヶ原町地域振興課（難波）、長浜市都市計画課（井口）、滋賀県教育委員会文化財保護課（澤本）

（取 材） 京都新聞、毎日新聞、ZTV

■議事進行 会長：林（滋賀県琵琶湖環境部次長）

☆凡例 委員の発言等○ 事務局の発言等● 会長の発言等◆

■議事要旨

協議事項

（1）委員解任および委員就任について（資料1）

- ・米原観光協会会長の委員解任および一般社団法人びわ湖の素DMO代表理事の委員就任について、事務局から説明を行った。

報告事項

（1）令和2年度事業報告および決算報告について（資料2-1、2-2）

- ・令和2年度事業報告および決算報告について、事務局より説明が行われた。

（2）今年度事業の報告について（資料3）

- ・今年度事業の報告について、事務局より説明が行われた。

（3）各団体保護活動について（資料4-1、4-2、4-3）

・伊吹山もりびとの会、ユウスゲと貴重植物を守り育てる会および伊吹山ネイチャーネットワークより、活動の説明が行われた。

(4) 伊吹山ニホンジカ捕獲事業令和2年度報告・令和3年度計画について(資料5)

・伊吹山周辺におけるニホンジカの捕獲状況について、米原市まち保全課より説明が行われた。

(5) 採掘跡地緑化事業令和2年度実績報告・令和3年度計画について(資料6)

・採掘跡地緑化事業2元年度の実績、R3年度計画および実施状況について、滋賀鉱産(株)より説明が行われた。

その他

・特になし

■議事録

協議事項

(1) 委員解任および委員就任について

反対意見なしであり、協議会の同意があったものと認めた。

報告事項

(1) 令和2年度事業報告および決算報告について

○繰越金が600万円近くあるが、基金に歳入し大きな自然災害等に備えて収支上積み立てをするのが良いのではないかと。内部で協議をしていただきたい。

また、事務経費で報償費が顧問に支払われているが、年間総額は幾らか。

●17万円。

(2) 今年度事業の報告について

○山頂の草刈りについて、令和2年度はコロナでできなかったが、今年度の計画および進捗状況はどうか。

●予定とおり、委託先の団体と相談しながら実施していきたい。

○山頂のネット設置について、残念ながら冬の間大きなダメージを受けたが、米原市をはじめ多くの関係者の御尽力でしっかりとネットを張り替えてもらい、感謝しかない。張替の時期が長引いたため、ネットの内側にシカが入り込んでいるのが現状。早急にネット内のシカの追い出しをぜひ検討してほしい。

○お花畑管理事業は5月で終わっているが、米原市は毎日のように補修してくれている。一応補修は完了したが、先週の土曜日に行ったら5か所ほど穴が開けられていた。シカがネットを破ることを覚えており、現状では追い出しをしても完全に防ぐことができない。今年の追い出し作業は濃霧のため視界が30mと悪く、東側で20頭、中央(西)側で10頭ほど追い出せなかった。犬を使ったとしても2時間程度が限界。追い出しは植物が茂る前の気温の低い時期にやるべきだが、難しい面がある。

中央の下の藪の中にシカが集中して生息していることがわかった(西にはほとんどいない)ので、きっちり追い出せるような体制作りを検討していきたい。オオバギボウシ柵が去年金属柵として完成。岐阜県側の雪が酷く一部分損壊したが、シカが一回も入った跡がない。きちんとした柵があれば効果が大きい。中央からやるか東からやるか難しいが、進めていきたい。

簡易のワンウェイゲートを作ったが、残念ながらシカが怖がって近寄らない状況。シカが大丈夫と学習したら有効になると思われる。中から出るためにネットが壊されているので、10か所くらい(東7、8か所、中央3か所程度)設置したい。

○びわ湖の素DMOの加入について、観光振興等に向けて大変心強いと思っている。市が観光資源としてとらえている中で、伊吹山のゴンドラ、ロープウェイ、三合目のホテルの整理を協議会の中でどういう方向性でやるのか、これまでも質問させていただいているところ。例えば、比良山におけるびわ湖テラスはロープウェイ往復3千円だが、多くの観光客で賑わっている。賤ヶ岳のロープウェイは一旦休業していたが、奥伊吹観光が再開した。難しいことは承知しているが、何時までも塩漬けにしているわけにはいかない。撤去するにしても何億というお金がかかる。どういう考えか、市の意見を聞きたい。

○(市地域振興課)組織の改編があり、市民部地域振興課で地域の課題として所管をしている。地元も含めて法的な対応を進めているが、費用負担が大きく打開策が見えない状況。上野区の地主としての立場もあるが、決定的な方法がない。放置していると老朽化が進み、危険性が増すので、早期解決に向けて努力していきたい。

○ロープウェイは長い間使っていないが、撤去しかないのか、再利用できないのか。奥伊吹観光はノウハウがあるので、地元の意向も踏まえて、ある程度これくらいのメドと決めてどういう方向性でやるのか、持ち帰って協議して協議会で報告をいただきたい。一歩でも半歩でも進めていただきたい。

◆私有財産でもあり難しい面があると思われるが、粘り強く取り組んでいただきたい。

(3) 各団体保護活動について

①伊吹山もりびとの会による活動報告(資料4-1)

(特に質疑なし)

②伊吹山ネイチャーネットワークによる活動報告(資料4-2)

○北尾根は縦に長いが、どれくらいの人数を募集するのか。

○15名程度。15名以上の場合は2パートに分ける。中間の御座峯で引き返すルート。たくさん美しい花が咲いているのでゆっくり楽しんでもらえると思う。

○一冊の値段はいくらか。

○高くても1,500円まで。

- 当協議会でみんなに売っていただきたい。
- フルカラー170 ページであれば 1,500 円でも高くない。

③ユウスゲと貴重植物を守り育てる会による活動報告(資料4-3)

- 登山道が10年前と比べて劣化が進んでいることを写真等で見せると現状がよくわかってもらえる。
- 2000年当初の写真を出したい。頂上の植生と合わせて表登山道の危険な状況を現場で認識していただきたい。
- 対策を考えねばならない。
- 表登山道は県道。道そのものを治すのは、基本的には県の担当部局の仕事だと思うが、現状を正しく把握しているのか。
- 県でも認識し対応してもらっている。補修費を積んでもらっている。ここまで行くと人力では対処できないので、中長期的計画を立てていく取り組みが必要。
- 登山道の周りの斜面の植生回復を本格的にやらないといけない。伊吹山の特性を考えた林業関係の補助事業を持ってくるとか、協力金での独自事業を考えてよいのではないか。急いで抜本的な対策を考えていこう。
- この場で県の担当部局に来てもらって県の対応について説明する機会を設けてほしい。
- ◆県と市で連携をよろしくお願ひしたい。
- 三合目植物観察会は7/23に予定通り開催されるのか。
- 参加予定48人、マイクロバス4台に12名ずつ乗車。公募した日に募集枠が一杯になった。リピーターが多い。

(4) 伊吹山ニホンジカ捕獲事業令和2年度報告・令和3年度計画について報告

(米原市まち保全課)

- 図3の長距離無線式捕獲確認システムの導入について、トリガーが作動した場合の出動確認体制はどうなっているのか。
- (米原市まち保全課) 8:30 から捕獲個体を取りに行くために市役所職員と猟友会の実施隊2人の都合等を確認し集合時間・場所を決めている。概ね午前中に処理をさせていただく。
- これから暑くなる。動物福祉上、早急な対応が重要なので処理も要する時間についても報告してほしい。
- 捕獲に関する予算はいくらか。
- (米原市まち保全課)鳥獣被害防止対策協議会から国・県に補助金を申請しシステムを導入。湖北地域鳥獣被害防止会で事業経費400万円弱の1/2を補助金充当。
- 米原市のシカ捕獲に関する予算は概算でいくらか。

○(まち保全課)米原市全体で約 4000 万円の捕獲委託を実施。

○県はシカの捕獲に対して予算化しているのか。

●H30 年度までは県も伊吹山で捕獲を行っていたが、以降様々な調整の中で実施していないという状態。他の地域では、霊仙山の多賀町側で去年まで、御池岳、比良では今年度も実施する予定。

○伊吹山は獣害が大変だということはこれまでも協議会で協議しているが、県は予算化していないということで良いか。

●他のところは専門家を選抜し短期間で捕獲するというやり方を取っている。

○いろいろな事情があるだろうが、県でも取り組んでいただけると有り難い。シカは埋設処分か。

○その場で殺傷し袋に入れて焼却している。

○そうでない光景を幾つか見ているので注意してほしい。

○市・自治体では必ず湖北行政事務センターで完全焼却している。

○三合目までの林道沿いで毎年 100 頭前後捕獲する事業がシカ対策を支えており、大変結構であり、かつ I C T を使ったシステムが軌道に乗ればさらに増えることを期待しているが、表登山道周辺等で柵の外を見ると植生の回復までシカの密度を下げる事ができていない。多分これの数倍の努力をしないと柵の外で有効に植生の回復を図ることは無理と思われる。5, 6 年前からお願いしているが、北側の麓、岐阜県側の麓で冬に降りてきたシカを大きな囲いわな等で多数獲ることが絶対必要と思う。それをやってみてシカが減るかどうかが検討しないといけない。いろいろな事情があることは承知しており、山頂の対策も大変であるが、シカの密度が減ることが大前提である。協議会が仲立ちになり、両県と地元自治体の知恵を合わせて、来年度は実現できるように今から計画をお願いします。

○(岐阜県環境企画課)岐阜県から状況説明とお願いがあるので少し時間を頂きたい。R 2 年度伊吹山の岐阜県側笹又地区周辺について、約 90 頭の保護捕獲を実施した(揖斐川町がデータを保有)。ただし何度か笹又に入って植生の状況やシカの状況を見ているが、非常にシカの生息密度が高いと思っている。あらためてシカの生息密度の調査と将来の効率的な捕獲方法の検討をしていきたいと考えている。そこでお願いであるが、まず一点目、米原市が過去に実施したテレメトリー調査が今後の参考になるので、詳細なデータ(季節ごと)を供与いただけるとありがたい。もう一点、今年の秋に密度調査の先触れとしてスポットライトカウンティングを実施したいので、ドライブウェイの営業終了後に車両を入れることをお願いしたい。岐阜県としてもシカの密度管理に着手していきたいと考えており、滋賀県と情報共有し専門家の意見を聞きながら進めていきたいと考えている。

○生息密度調査は、滋賀県側でも全くされていないので、岐阜県側と同じ方法で伊吹山

のシカ密度を知ることが大事。相対的な数字で良いので、山頂付近、中腹、山麓の 2、3 か所で推定数を毎年出してもらおうと、皆が状況を理解できる。岐阜県側と協議して伊吹山全体のことを分かるようにしてほしい。もう一点は I C T がうまく行くのであれば、慣れを防ぎやすい「くくりわな」(大台ヶ原では主流)を設置し、捕獲効率を上げることについても検討いただきたい。

シカの追い出しについて、25 頭~30 頭のシカを逃がすのはもったいない。追い出しではなく殺処分すべき。山頂は三合目と異なり、柵の中でシカが生息しているので必死にアタックを掛ける。中に住んでいるシカを取り除くことができれば、シカの圧力をかなり下げることができる。今後安全を考えながら、どういう方法が可能なのか検討してほしい。

(5) 採掘跡地緑化事業令和 2 年度実績報告・令和 3 年度計画について(滋賀鉱産株式会社)

○委員(学識経験者)の感想を聞きたい。

○パークなどの吹付機材を本格的に使った種子の吹付はここでは初めてで、どう出るか大変興味深いと思ったが、早くも一月後にたくさん発芽しているので、予想外に良く、特に南側は大変成績が良いと言えるのではないかと思う。この調子ならば、秋に枯れる前に成績がある程度わかるかもしれないと期待している。昨年度や一昨年度の場所を拝見するとヨモギが多く出ているように感じた。業者の経験上よいと思われる配合をされていると思うが、もし最終的に残るのがヨモギであれば、地元産の種子に資源を集中させるということも、来年度以降は検討できればよいのではと思った。今までのところでは生えたらよかったという感じだったが、このやり方ではもう少し早くなるのではと思う。

一昨年に協議会の関係者と過去の上部緑化のところ(上の三角形)を登って見せてもらったが、植物が良く覆って本来の植生に近づいており、全体として緑化事業は成功していると感じた。しかし今回下から見たところ、この 2 年の間に植生がなくなっているところが目立つようになっており、シカの対策を考える必要が出てきていると思った。

○見学の人選は滋賀鉱産で行ったのか。

○緑化事業を実施するにあたり県に案内した。コロナのこともあるので、あまり大人数での見学の受け入れができないため人数を絞った。

○外注の場合は費用が掛かっているのではと思うが、(学識経験者委員に対して)費用対効果はどう思われるか。

○経験も浅いのでそれはわからないが、今日の写真を見る限りでは、うまく行っていると言えるのではないかと感じた。

○勾配は 37 度でよいのか。

○37 度は安息角と言って、自然に崩れない、安定する角度であり、その角度で造成している。

- 団体等による採掘現場の見学は受けてもらえるのか。
- 団体等の見学については、申請をしていただき親会社と協議の上見学を受け入れている。個人の見学はあまり受けていないのと、コロナの関係で大人数での見学は当面遠慮いただいているところもあるが、とりあえずは書面等で申請をお願いしたいと考えている。
- 一日の上限は何人と考えればよいか。
- 上限人数は決まっていないので、親会社と相談しながら決めていくことになる。例えば協議会からある程度人数を募って申し込みしていただくという形が対応しやすい。
- 協議会以外の団体が書面で申し込みしても検討していただければありがたい。
- 昨年度、今年度も申し込みがあったが、お断りするような事例もあるので、必ずお受けするというにならないことをご留意いただきたい。
- 公益性が担保されればよいということで良いか。
- 公共性・公益性があれば申し込みしていただいて構わない。
- 参考までに、学校行事で伊吹山の登山を計画する場合はどこに申請したらよいか。
- (米原市生涯学習課)学校行事だと学校教育課が窓口となるが、生涯学習課が窓口となる場合もある。長浜市の学校は長浜市の教育委員会経由で相談してほしい。
- ◆貴重な意見に感謝。本日協議した内容については事務局で整理し、お返ししたい。
- 長時間にわたり熱心な議論に感謝。貴重な意見を協議会の運営に反映させていきたい。今後 ZTV で放送予定あり。